（別紙4（2））

事業所名 マーブルくらのうえ

作成日： 平成27年 5月 20日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	マーブルくらのうえが株式会社アメニティライフ（当時は有限会社アメニティ企画）として運営開始して10年となる。会社の基本的理念は変わらないもののグループホームとしての特有性を鑑みて、マーブルくらのうえとしての理念を職員全員が共有する。	会社の理念に則って、グループホームとしての特有性のある理念を新たに作り上げ、職員全員が共有することにより、よりよい介護に繋げる。	職員全員各々が、理念として大事にしたいと思う言葉を持ちより、それらをひとつの文章とする。実際に職員全員が共有し、ケアをすることでどういう改善点や、利点があったかを振り返る。	1ヶ月
2	35	高齢であり介護度が重度化されている方もおられ、また認知症があるため、災害時には必ず支援が必要である。昼夜を問わず、職員全員が利用者が避難できる方法を身につけなければならない。それとともに、地域の協力体制も確立する。	災害マニュアルをもとに、全職員が対応できるようにする。防火管理者の指導のもとに、消防訓練を行う。地域の方にも協力を得るようにお願いする。	会社全体の防火管理者ではなく、講習を受け、マーブルくらのうえの職員の中で防火管理者を選出する。マーブルくらのうえでの起こり得る災害を想定し常に意識する。災害時の地域の方の協力を具体的にお話して協力を得られるようにする。	3ヶ月
3	6	入居者様の高齢化や介護度の重度化に伴い、やむを得ず、点滴や経管栄養等が必要な方が時々おられる。そのため、抜去等が予想される方に関しては、ミトン使用等がある。	身体拘束をしないケアを職員全員が意識する。身体拘束を行う前に、他の方法がないかどうかを十分に考え、身体拘束を行うことによるリスクも合わせて検討する。	身体拘束マニュアルを職員全員が熟読する。身体拘束の検討をする際は、必ずカンファレンスを行い、身体拘束に頼らないケアも同時に検討する。また、定期的に担当者会議を開催し見直しをしていく。	6ヶ月
4	20	集団での外出はあるが、個別に入居前の馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に出かける機会は少ない。	集団での外出は今まで通り続けていく。それと同時に出来るだけひとりひとりの希望に合わせて馴染みの人や場所との関係を継続していく。	本人やご家族から馴染みの場所や、好きな食べ物やお店の情報を確認する。職員より季節に合わせて提案をしていく。また、日頃の生活の状況をご家族様にお知らせをする回数を増やし、ご家族様や知人と会う機会を多くする。	12ヶ月
5	4	運営推進会議への地域の方等及びご家族の参加が少なくなっている。	運営推進会議に、行政の職員、民生委員や区長等、地域の方々、ご家族様ができるだけ多く出席していただく。それによって地域の理解・協力を頂き、ご家族様のご意見等が施設に反映することができる。	運営推進会議の日程を決める際は、できるだけ出席しやすい日を提案する。行政の職員、民生委員や区長等には直接お知らせをする。また、地域の老人会に職員が出席してグループホームの状況や会議への出席をお願いする。	12ヶ月

6	49	ひとりひとりの希望にそった外出支援の機会がまだ少ない。個別少人数での外出の機会を増やしたい・。	ひとりひとりの希望や、天候に合わせた外出が常にできるように支援していく。地域の方々の支援も受けながら、交流も深めていく。	マーブルくらのうえが自宅と考えて、臨機応変に天候に合わせて散歩などを行っていく。季節によってお花見や誕生月には好きな物を外食するなどの計画もたてる。買い物も職員と一緒に行くなどが日常的に行えるようにする。	12ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。